

5 住民の地域参画を促すために必要な視点は？ ～ 地域に参画するための4つのステップ～



(1) 地図をつくろう

私たちは、地域のことをどれくらい頭にイメージできるでしょうか？地域に参画して学ぶための第一のステップは、まず、自分の地域の姿が頭の中に「地図化」できるようになることです。

学校教育では、小学3年生の時に、身近な地域社会に出て学習をする際に地図に表わすことを学びます。大人が地域参画を学ぶにあたって、同じように地域を歩いて、あらためて大人の視点から地域の地図を描いてみましょう。その地図に表わしたところが、みなさんそれぞれに地域参画をしていく舞台になります。さらに、同じ地域を他者がえ



がいた地図で学び合うことによって、地域の多面的な姿に気づくことになるでしょう。まちづくりは、「まち」の「ちず」をつくる「まちず」くり活動から始まります。

(評価の視点：あなたは、自分の地域をどの程度地図に表わすことができましたか？)

(2) 地域の人とふれあおう

地域には、高齢者から幼児までさまざまな世代の男女が暮らしています。さらに、多様な職業や仕事をしている人が住んでいます。そのような人たちが、隣近所、同じ地区内に住んでいることが、地域社会の豊かさにもなっています。それを享受するには、地域の人とふれあう機会が必要です。

子どもたちが地域で安全に暮らすためには、地域の大人の理解と支援が必要です。子どもだけでなく、大人どうしても何かあれば助け合う必要があります。地域づくりという積極的な活動をする場合にも、だれがどのような仕事をしているのかを知り、お互いの持ち味をともに生かした共同活動が求められます。つまり、地域参画学習の基本は、より多くの地域の人とより共感し合うふれあい活動にあります。

(評価の視点：あなたは、どれくらいの地域の人とどの程度ふれあいましたか？)

(3) 地域の現場に関わろう

地域にはさまざまな施設や、大人が働いている現場があります。子どもの教育を知るには、子どもが学んでいる学校の現場にPTA活動や学校地域支援活動などを通して関わることによって、より理解が深まります。

同じようにして、公民館や博物館や図書館などの社会教育施設を積極的に利用することとともに、田畑や工場などの生産活動の現場や商店街などの商業活動の現場、福祉施設などの現場にも積極的に関わることによって、地域の特色ある具体的な学習活動が生み出されます。そして、そこからモノづくりやサービス活動など、地域づくりにつながる実践も行われることでしょう。それらはすべて、地域の現場に参画することによって生まれます。

(評価の視点：あなたは、地域の現場にどれくらい関わった学習をしましたか？)



(4) 活動モデルをつくろう

地域で行う学習は、地域のさまざまな施設や人や資源などを結びつけた複合的な活動になります。その活動の全体を図に表わしてみることによって、「その活動を行うには、地域内のどこからどのような用意をしたらいいのか？」「その活動は、具体的に地域のどこにどのような影響や効果が期待されるのか？」「その活動によって、私は地域にどのようにより深く参画することになるのか？」などといった、地域と自分の活動との関係を具体的に把握することができます。

さらに、このような活動モデルを作成することは、活動の関係者の理解と協力を得ることに役立つとともに、そのモデルをもとに別の人が別の地域で行なったりすることにも役立ち、地域参画学習がより多くの住民によって行なわれて地域づくりが進むことが期待されます。

(評価の視点：あなたは、自分の地域参画学習の活動モデルを描くことができましたか？)

(高千穂大学 准教授 松田道雄)

